

# 日本にEVバス

## ヒョンデ、来秋にも投入

韓国・ヒョンデは2024年秋をめどに電気バス(EVバス)を日本市場に投入する方針を明らかにした。まずは母国で今年2月に発売した中型バス(全長9.9m)の「エレクシティタウン」の投入を計画する。右ハンドル仕様とし、充電規格もCHAdeMO(チャデモ)とするなど使い勝手を高め、日本市場で販売を目指す。

販売計画や価格は明らかにしていないが、日本人のヒョンデモビリティ



イジャバン(趙源祥社長、横浜市西区)商用車事業室の朴盛煥室長は「競合車にも対抗できる価格を設定していきたい」と語った。

中型EVバスでは、中国・比亞迪(BYD)の日本人、ビーワイディージャパン(劉学亮社長、横浜市神奈川区)も「J7」を日本市場に投入する。24年1月から予約を開始し、25年秋以降の納車を計画している。

国内勢では、いすゞ自動車が「エルガEV」を2024年度中に発売する計画だ。ただ、全長約11.5mのエルガEV(韓国仕様)

は大型バスだ。中型以下は日野自動車ニッサが小型「ポンチョEV」を22年度中に発売する考えだったが計画を見合あわせている。バスのEV化では中韓勢が先行しそうだ。